

西之島の火山活動解説資料（平成 30 年 6 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

火山活動に明らかな低下が認められ、噴火が発生する可能性は低くなっていることから、20 日 18 時 00 分に火口周辺警報（入山危険）から火口周辺警報（火口周辺危険）に引き下げました。あわせて、噴火による影響が海上まで及ぶおそれがなくなったことから、火山現象に関する海上警報を解除しました。

噴火の可能性は低くなっているものの、火口付近に噴気や高温領域が確認されており、小規模な噴火が発生する可能性は否定できません。火口から概ね 500m の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。また、これまでの噴火で流れ出た溶岩は、表面が冷え固まっていますが、地形的に崩れやすくなっている可能性が考えられますので、火口から概ね 500m を超える範囲でも注意が必要です。

○ 活動概況（図 3 ～ 7）

14 日に海上保安庁が上空からの観測を実施しました。それによると、火砕丘中央の火口内壁東側の噴気帯で複数の白色噴気が認められ、時折噴気が火口縁を越えることがありました。火砕丘周辺に周囲よりも高温域が認められましたが、沿岸部には認められませんでした。また、島全周で変色水域が認められ、特に北～北西側で黄褐色の変色水域が幅 200～300m で分布していました。

気象衛星ひまわりの観測によると、2017 年 7 月頃から、西之島付近の地表面温度は徐々に低下し、また高温域は縮小し、8 月頃からは周囲とほとんど変わらない状態となっています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（平成 30 年 7 月分）は平成 30 年 8 月 8 日に発表する予定です。

この資料は、海上保安庁、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、東京大学地震研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。
西之島



図 1 伊豆・小笠原諸島の活火山分布、及び西之島の位置図

西之島は、東京の南約 1000km、父島の西約 130km に位置します。

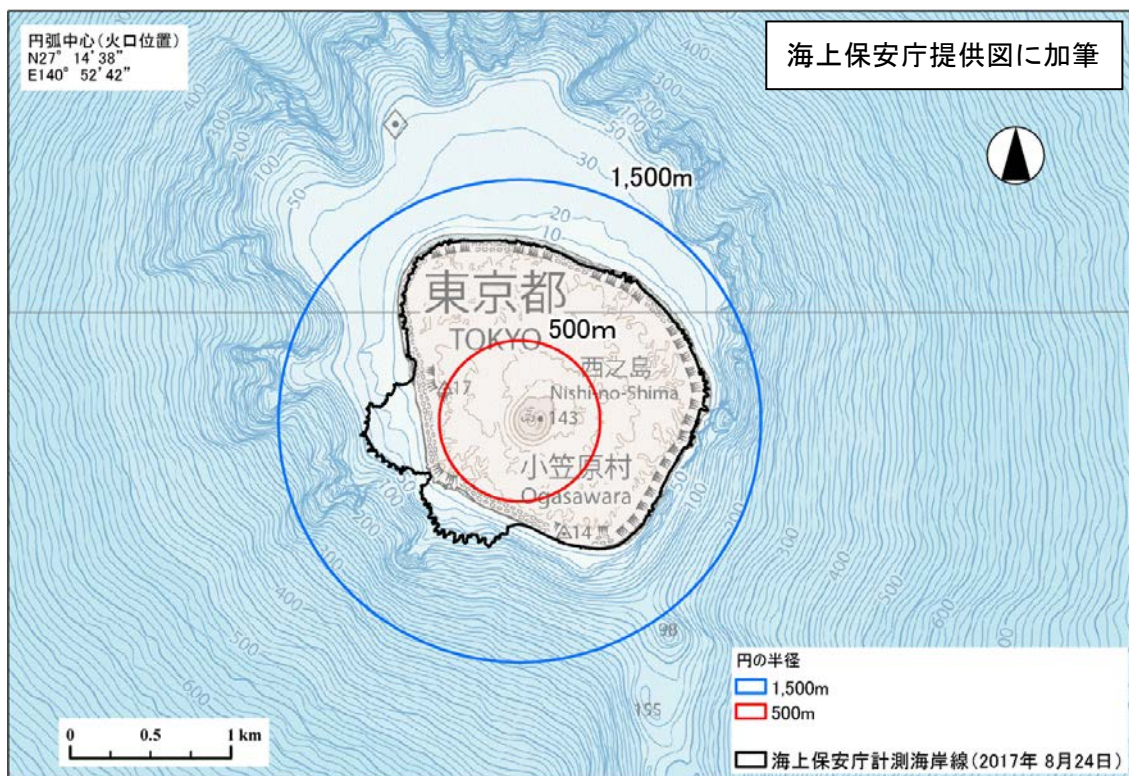


図 2 西之島 警戒が必要な範囲（火口から概ね 500m の範囲）

海底地形は噴火前のもので、現状とは異なります。

- ・警戒が必要な範囲を 1.5km（青円）から 500m（赤円）に縮小しました。



図 3 西之島 全景（6 月 14 日撮影）



図 4 西之島 白色噴気（6 月 14 日撮影）



図 5 西之島 北西の変色水域（6 月 14 日撮影）

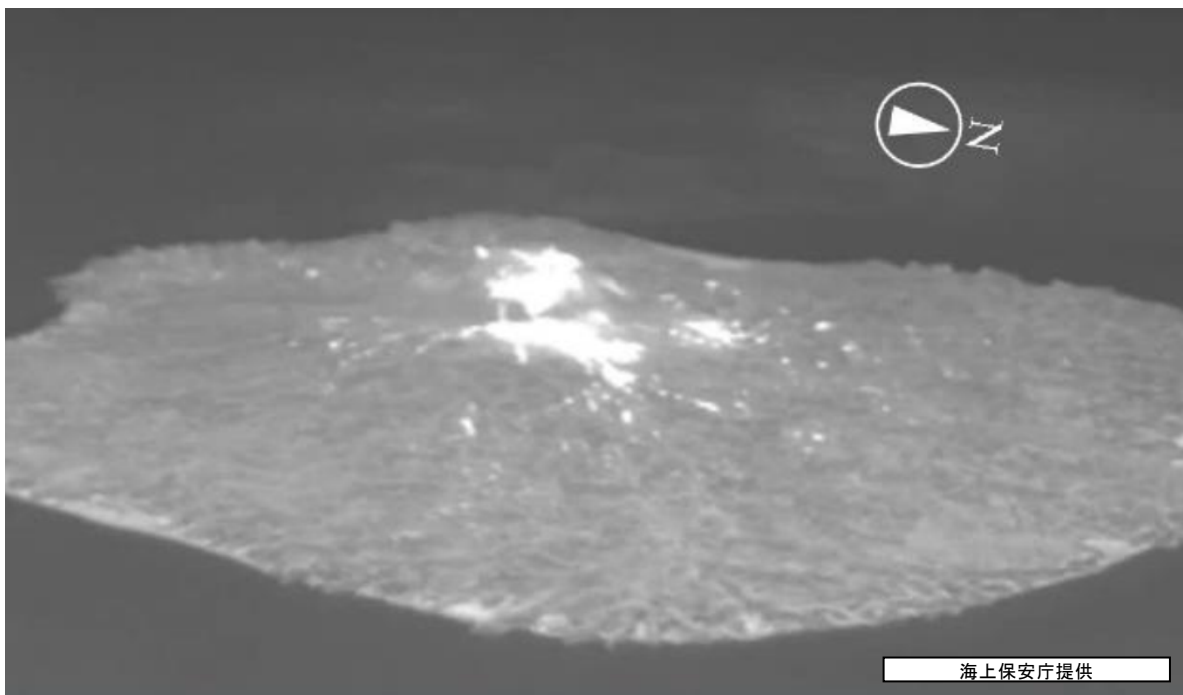


図 6 西之島 熱画像（全景）（6 月 14 日撮影）

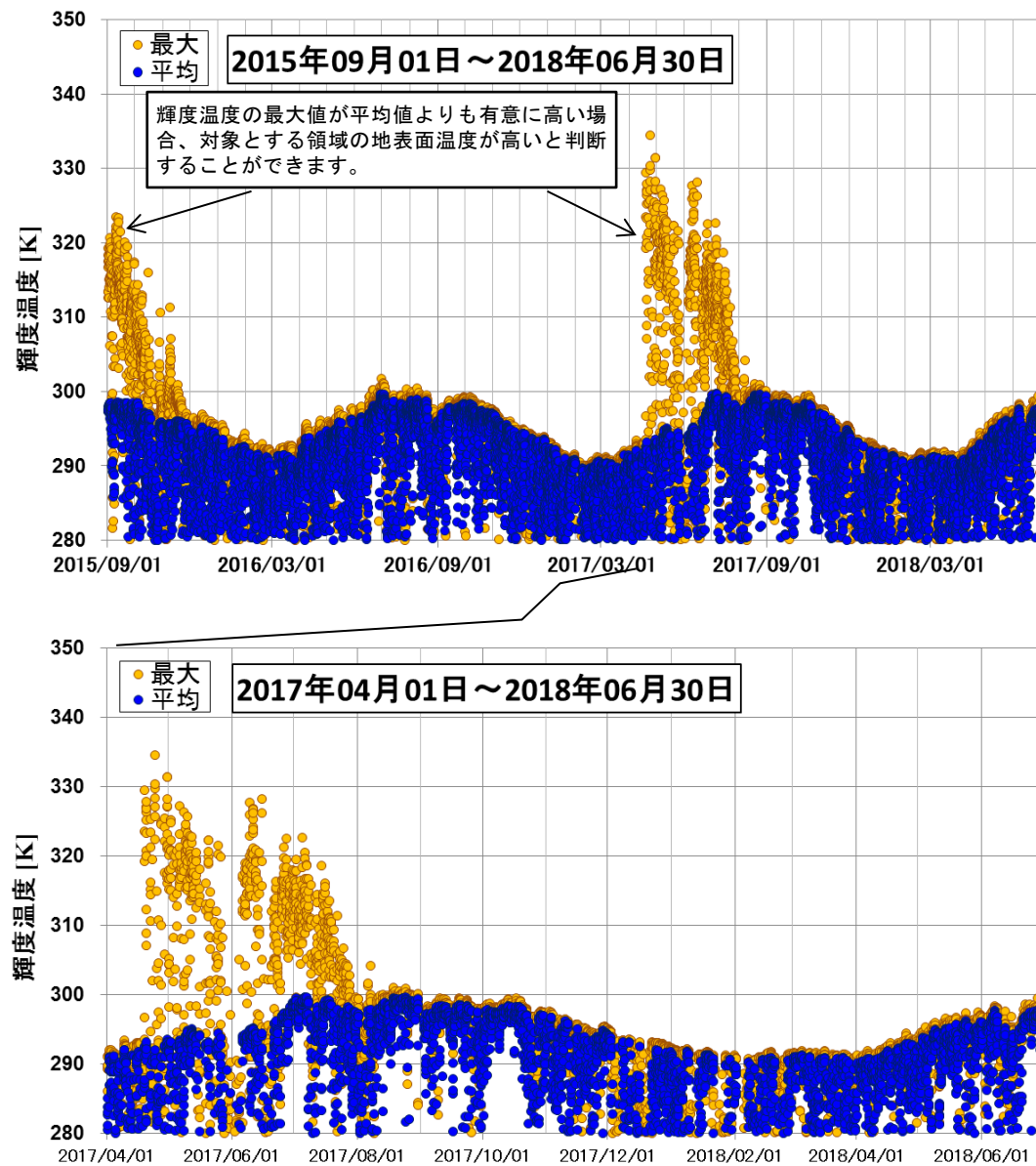


図 7 西之島 ひまわり 8 号の観測による西之島付近の輝度温度の変化

輝度温度は中心波長 $3.9\mu\text{m}$ 帯による観測。

西之島を含む概ね 30km 四方の領域内の輝度温度の、最大値と平均値を示しています。

日射による影響を考慮し、夜間の観測値のみ解析しています。

2017 年 7 月頃から、西之島付近の地表面温度は徐々に低下し、また高温域は縮小し、8 月頃からは周囲とほとんど変わらない状態となっています。